

中学校 第1学年 国語科 学習指導案

日 時 平成 29 年〇月〇日 第〇校時

対 象 第1学年〇組 〇名

学校名 〇〇〇〇中学校

授業者 〇〇〇〇

1 教材名 「少年の日の思い出」

2 単元の目標

場面の展開に沿って登場人物の心情の変化を捉え、登場人物の考え方や感じ方について自分の考えを広げる。

3 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語に関する 知識・理解・技能
①自分の考えを明確にして討論会に参加し、新たな考えを広げようとしている。	①場面の展開に沿って登場人物の行動と心情の変化を読み取っている。 ②討論会の活動を通して自分の考えをまとめている。	①心情や情景を表す語句の意味や役割を理解している。

4 指導観

(1) 単元観

本単元では、中学校学習指導要領国語編第1学年 C「読むこと」の「ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」「オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。」に重点をおいて指導を行う。

本単元では登場人物の心情の変化と変容を本文に沿って読むという既習事項を踏まえ、登場人物の人物像、行動の意図、主題について討論という活動を通して考えを広げていくことをねらいとする。各論題について考えを共有し、生徒一人ひとりに考えを再構築させるという指導過程を設定した。再構築する場面で再度教科書の本文に根拠を求めさせ、生徒にものの見方や考え方を広げる力を付けたい。

(2) 教材観

この物語は不完全な額縁構成となっており、「今」と回想場面で語り手が変わる。回想場面の語り手である「僕」が、どのようにエーミールの蝶を盗み、壊してしまったことを語っているのかということに焦点をあてると、様々な読みが可能な作品である。物語は、登場人物の行動や心情の変化をワークシートにまとめて理解させる。その後、考えさせたい三つの課題を示し、考えをもたせる。

課題は、

- ①エーミールは模範少年である。
- ②「僕」がクジャクヤママユをつぶしたのは罪である。

③「僕」が蝶を一つ一つつぶしたのは償いのためである。

とする。これらは、生徒の感想や疑問をもとに教師が設定した。人物像・行動・結末の意図に焦点を当てて3つに絞った。それぞれを賛成・反対2つの視点から読み進めていくには、討論会の形式で提示することが有効である。討論会の班編成は、まず課題に対して自分が肯定か否定かを考えさせ、論じたい課題の希望を取り5～6名を基本の人数として編成する。他の課題を担当する視聴側の四つの班には、討論に出てきた根拠のメモを取るよう指示を与え、討論を終えた段階で自分がどちらの立場で考えるか判断させる。肯定・否定それぞれの主張を比較しながら考えを広げさせ、考えながら文学を読む楽しさに触れさせたい。教師が生徒の意見そのものを価値付けするのではなく、生徒が作品に向き合って自分の考えを深めることができたかを発達段階を考慮しながら評価して主体的に学ぶ態度につなげていく。

5 年間指導計画における位置付け 「読むこと」文学的文章

時期	教材名	身に付けさせたい力	学習指導要領における指導事項
5月	花曇りの向こう	・場面や登場人物の描写に着目して内容を読み取る。	ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。
9月	星の花が降るころに 大人になれなかった 弟たちに……	・場面の展開や登場人物の描写に着目して読み、ものの見方や感じ方について自分の考えをもつ。 ・登場人物の行動や情景描写に着目して象徴するものを捉え、自分のものの見方や感じ方を見つめ直す。	ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。 オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。
12月 1月	少年の日の思い出	・場面の展開に沿って登場人物の行動と心情の変化を読み取っている。 ・討論を通して自分の考えを広げている。	ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。 オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。

6 単元指導計画と評価計画 (7時間扱い)

時	ねらい	学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)
第1時	語り手と回想場面について確認し、物語の構造を理解する。	・ワークシートに前半場面について設定を読んで書き込む。 ・人物についての記述に着目し、回想場面の語り手を確認する。 ・感想や疑問をまとめる。	イ-① (ワークシート、発言内容)
第2時	「僕」とエーミールの人物像を読み取ることができる。	・ワークシートに「僕」とエーミールを対比しながら読み、記入する。 ・「僕」の心情をまとめる。	イ-① (ワークシート、発言内容) ウ-① (ワークシート)

第3時	「僕」の行動と心情の変化を読み取り自分の考えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに「僕」の行動と心情の変化に着目して読み、記入する。 ・「僕」の苦い思い出として語られている内容について自分の考えを書く。 	イ-① (ワークシート、発言内容) ウ-① (ワークシート)
第4時	討論会のグループで根拠をまとめ、原稿を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・論じたい課題を選択し、肯定側と否定側に分かれて原稿を作成する。(2班×3課題) ・教材から根拠となる表現を探す。 	イ-② (ワークシート、発言内容)
第5時	討論会のグループで根拠をまとめ、原稿を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定側と否定側に分かれて原稿を作成する。 	イ-② (ワークシート、発言内容)
第6時	討論会を通し論題について自分の考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・討論を通して、読みを広げる。 <p>課題1 『エーミールは<u>模範少年</u>である』 予想される根拠 賛成) 冷静で何でもよくできる。 反対) あらさがしをした。</p> <p>課題2 『「僕」がクジャクヤママユを<u>つぶしたのは罪</u>である』 賛成) つぶしたことは事実だ。 反対) わざとではない。</p>	ア-① (観察、ワークシート) イ-② (ワークシート)
第7時 本時	討論会を通し論題について自分の考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・討論を通して、読みを広げる。 <p>課題3 『「僕」が蝶を一つ一つつぶしたのは<u>償い</u>のためである』 賛成) 蝶に対して申し訳ない。 反対) 二度と見たくないから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題について自分の考えをまとめる。 	ア-① (観察) イ-② (ワークシート)

7 指導に当たって

・指導展開

主体的・協働的な学習の指導に重点をおいて指導を展開する。生徒が事前に考えをもち、集団での討論活動を経験した上で、もう一度課題について個人で考えを再構築させる。

・指導技術

生徒に教師と共通のゴールイメージをもたせながら学習活動に臨ませる。

8 本 時（全7時間扱いの第7時間目）

(1) 本時の目標

課題について自分の考えを広げて再構築する。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を把握する。 ・ワークシートを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「目標」を明示する。 ・課題を意識し、肯定・否定二つの立場から考え、最終的に自分の意見をもつことを確認する。 	
展 開	<p>展開①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題3：『「僕」が蝶を一つ一つつぶしたのは償いのためである』について討論を行う。 ・視聴者はどちらの意見に説得力があるかを考え、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・討論会がスムーズに進行するように支援する。 (タイムキーパー・司会生徒) ・表現を根拠として述べることを確認する。 『予想される視点』 肯定：叶わない償いと分かっているにもかかわらず、またつぶしてしまったクジヤママユに対してせめてもの気持ちを表した行動である。 否定：エーミールに対して肯定的な感情はなく、自分の目に蝶が二度と触れないように、忘れるためにした行動である。 	イ-②（ワークシート、発言内容）
	<p>展開2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論会をもとに3つの論題について再度考えたことをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文に論拠を求めさせ、肯定・否定どちらかの立場を選択させる。 ・早く書き終わった生徒には、読解の段階で考えた内容を振り返らせ、変容があったか確認させる。 	
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・再構築した意見を共有する。 ・討論会の内容を振り返り、3つの課題についてそれぞれの立場の根拠と読み取れる内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再構築した意見を数名に発表させ、立場や根拠を全体で共有する。 ・討論の前後で考え方に変化があったか、課題として挙げたエーミールの人物表現、つぶした経緯、償いがないことを知った「僕」の成長について教師が板書をして確認する。 	

(3) 板書計画

討論会 少年の日の思い出

◎目標 課題について自分の考えを広げよう

課題 「僕」が蝶を一つ一つつぶしたのは
償いのためである

課題についてのまとめ(予想・例)

☆1 エーミールは模範少年であるか。

肯定根拠 「あらゆる点で模範少年だった」
「僕」には個人的感情が働いている。

否定根拠 「難癖をつけはじめた」
人が傷つくような批評をしている。

☆2 クジヤクヤママユをつぶしたのは罪か。

肯定根拠 「生まれて始めて盗みを犯した。それは『僕』がやったのだ。」
盗んだこと、壊したことに「僕」は
罪悪感を抱いている。

否定根拠 「つぶしてしまったら『僕』の心を苦しめた」
ちようをつぶそうとしたわけではない。

☆3 ちようを一つ一つつぶしたのは償いか。

肯定根拠 「ちようの収集を全部やる、と言った」
エーミールに謝罪に言った際、償いの
ためにすべて渡すことを決めていた。

否定根拠 「二度起きたことは償いができないと悟った」
二度と目に触れないようにしている。